

## 121010 ヒメキマダラヒカゲ

今回は、晩夏に金剛山で出会った「ヒメキマダラヒカゲ」を紹介します。

このチョウ、近畿地方では高標高地（およそ1,000m以上）でしか見るこのできない種で、前翅長は30mm弱くらいです。

どちらかと言えば“地味”なチョウなのですが、5～9月頃に出現し、ヒヨドリバナやクガイソウなどの花を好んで訪れます。

幼虫はササの葉などを食べているようです。

大阪府内では高標高の山地に局地的に生息し、個体数も少なく、“準絶滅危惧種”に分類されていますが、金剛山頂付近では比較的好く姿を見ることのできる種です。

### 写真 ~ : ヒメキマダラヒカゲ

金剛山頂付近の「ちはや園地」で撮影した個体です。

8月末頃に最も個体数が多かったようです。

### 写真 ・ : ウラナミシジミ

前翅長15mm程度のシジミチョウです。

発生を繰り返しながら分布を北へと広げ、8月下旬頃には個体数がピークを迎え、秋には北海道でも見ることができるようです。

ただし、日本で越冬できるのは、関東以西の温暖な沿岸部に限られます。

写真は、交尾しているところです。

### 写真 : ミドリヒョウモン

前翅長40mm弱の種で、南河内の山では「ツマグロヒョウモン」とともに、ヒョウモンチョウの仲間では比較的生息数の多い種です。

この写真は交尾しているところですが、上側の個体が雌のようです。

ちなみに、タテハチョウ科の種（「ミドリヒョウモン」も先の「ヒメキマダラヒカゲ」もタテハチョウ科）の足は4本しかないように見えるのですが、

よく見ると頭部と前の足の間小さく折り畳まれた一組の足があります。

この足は歩いたり掴まったりするためには役に立ちませんが、先端に生えた感覚毛で味を感じることができ、**感覚器官**としての働きに特化しているそうです。











